

夏立絹端後編

六

ヲ多9
641
6

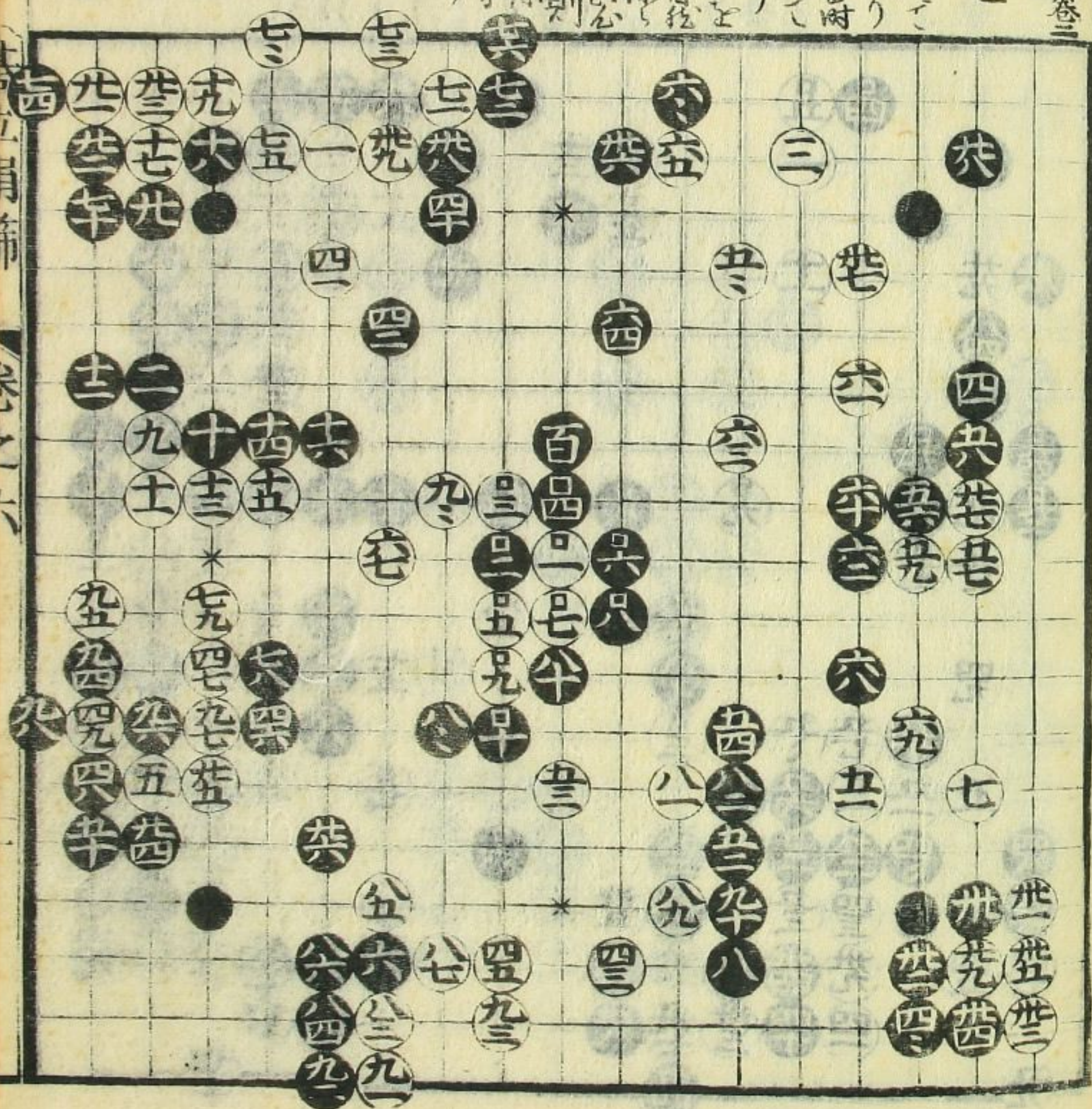




碁五編師後篇卷三

百十のこ

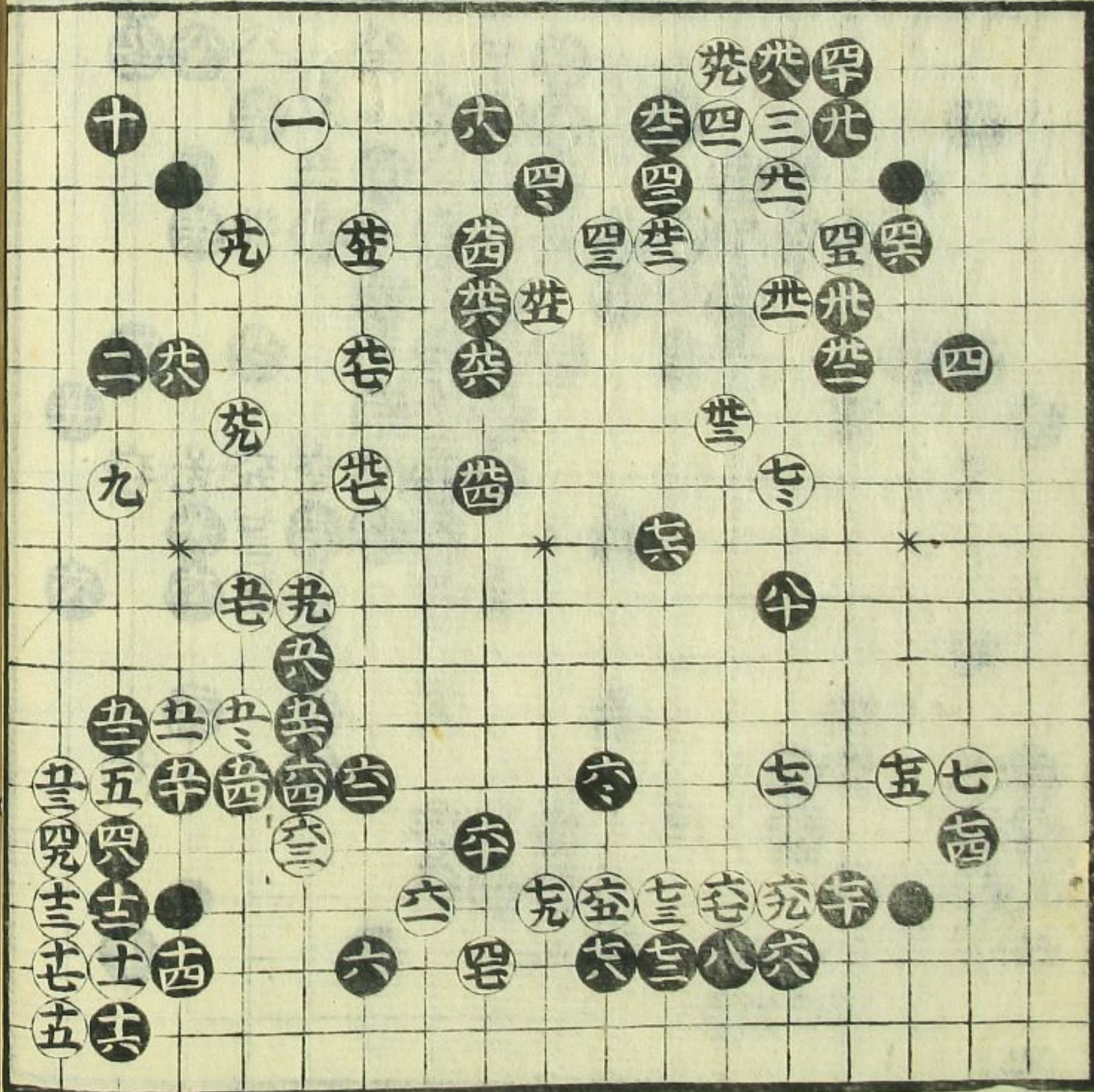
此石立黒百十のこ
 黒に押勝白生より
 此下七五子房の附
 女目ほど八地ゆこ
 かの勝なり
 斯のこく、戒るを
 強くせり、折て自後
 と白の勝るを、神
 む、一切のこを、け
 を放つ、ゆ、り、則
 本、亦、置、し、ゆ、録
 して、ゆ、ま、あ、り、ゆ
 と、ゆ、い、基、り、り



碁五編師後篇卷三
 百十のこ

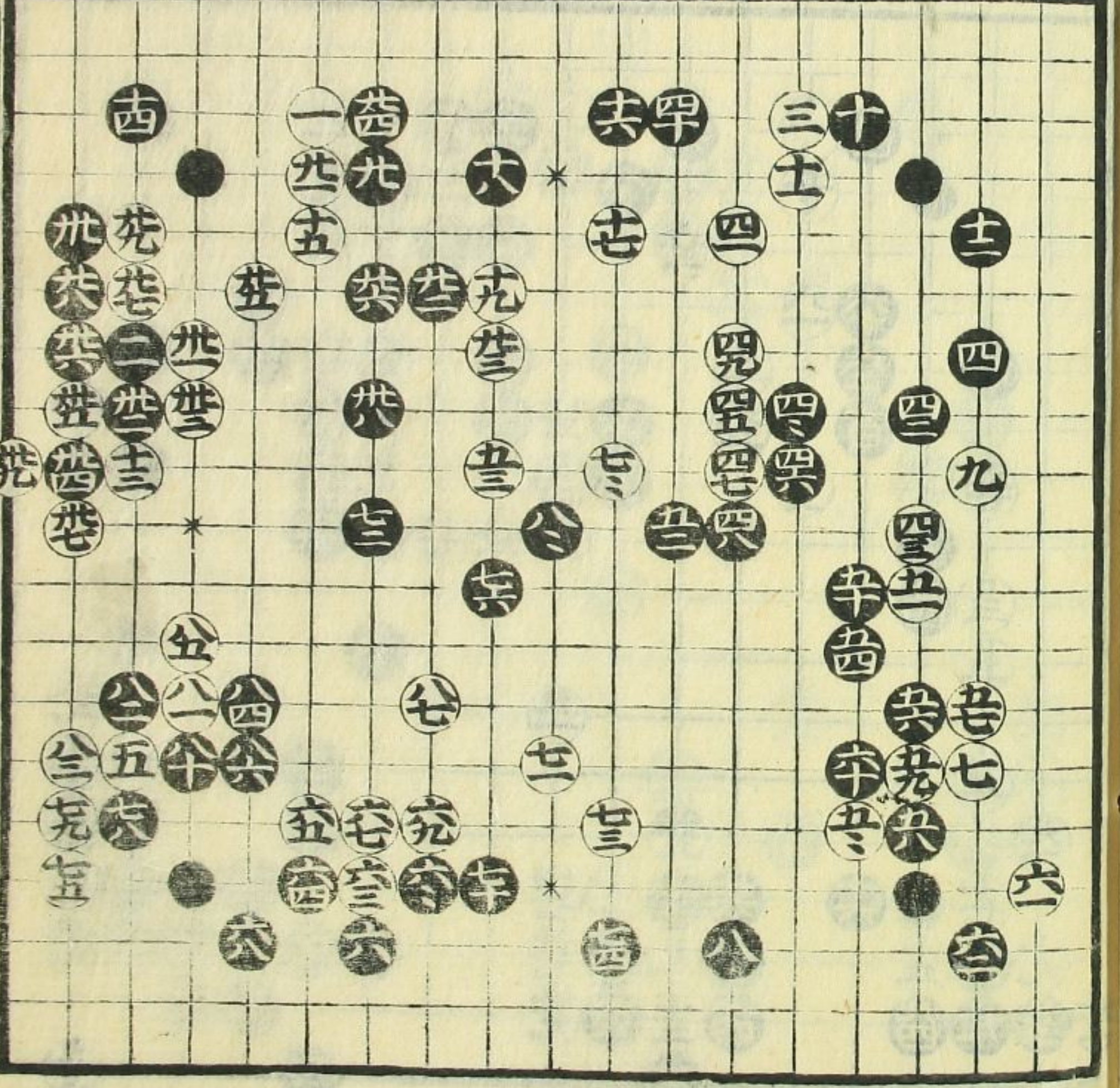
八十の逆

此石立黒雲く打て位一才一寸凡石を...



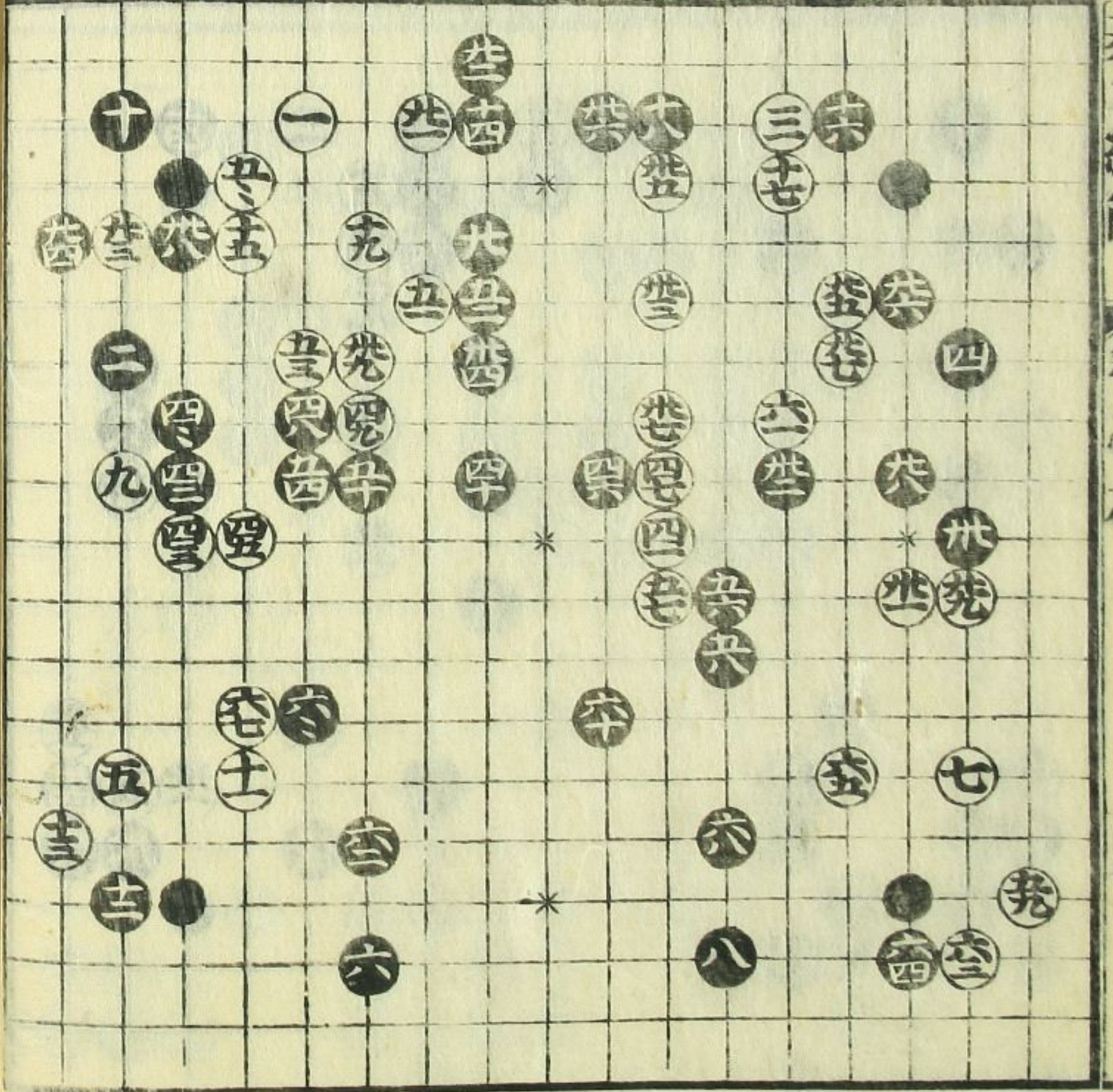
八十八の逆

此石立の石と雲く打て自位に位大...



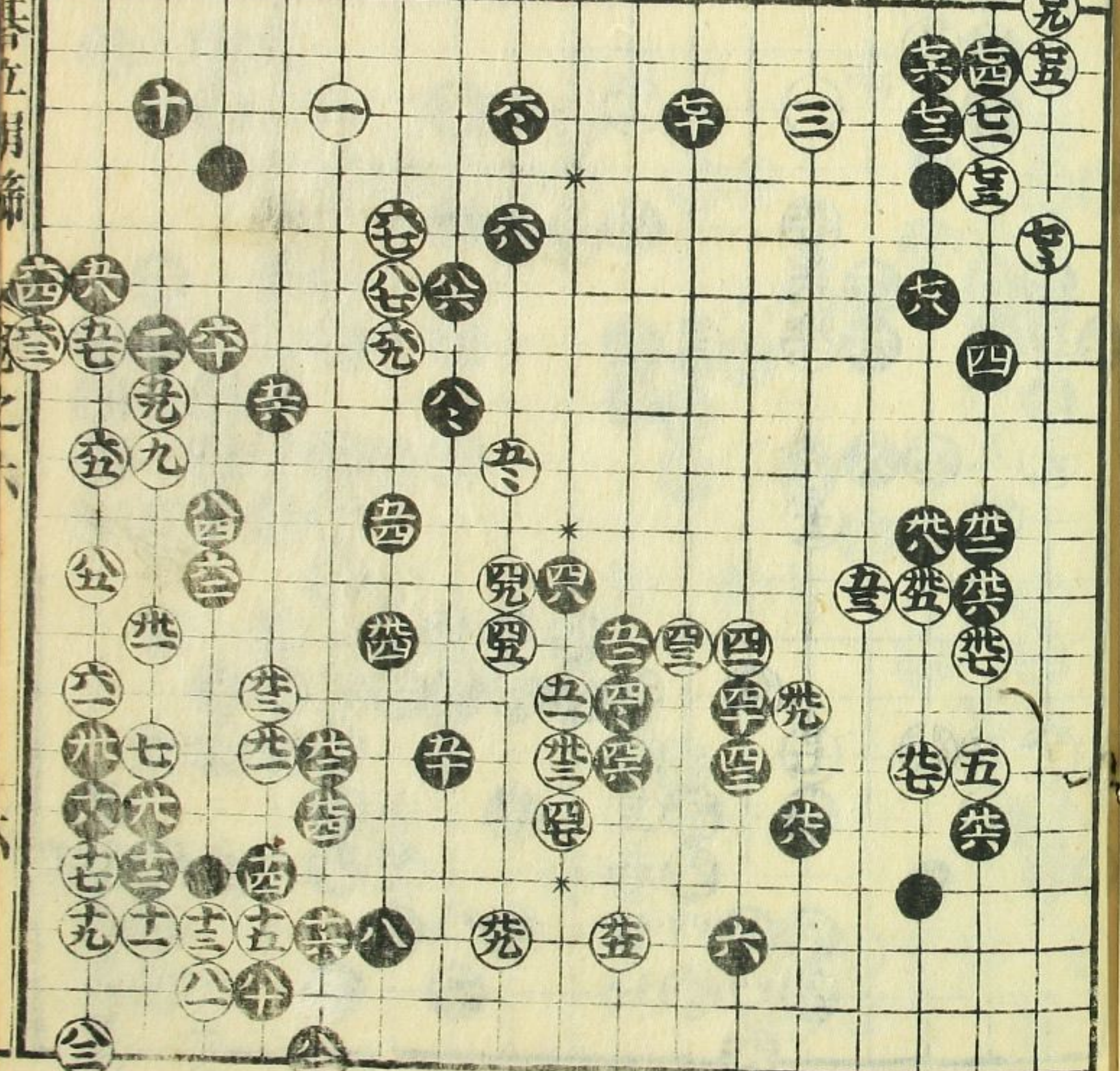
六十八番

此石立強きを離れ
れ我らと思ひ置か
て思ふに能はず
計之を以て白は
くまふも白は
後て即ち白は
通るに能はず
意に能はず
り此を以て
先公の意を
凡弱くす
意に能はず
すも思ふに能
同く思ふに能
と知くす
公の意を先
公の意を先



八十八番

此石立上下の白
と取らるる両
白引取らるる
負かすのや
かすのや
と取らるる
と取らるる
凡は
白負にあり
のこす
事す

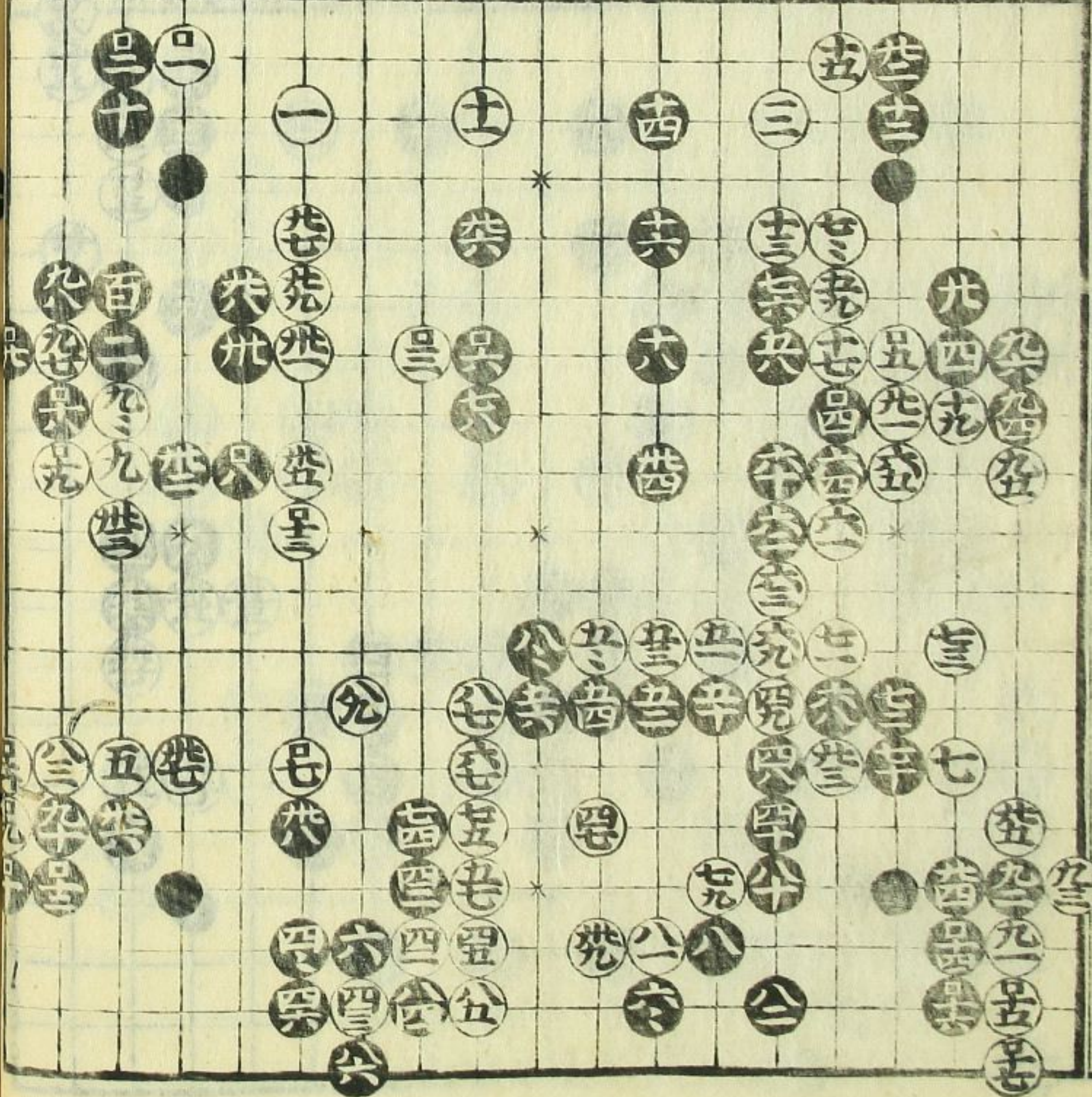


其五片節

其五片節

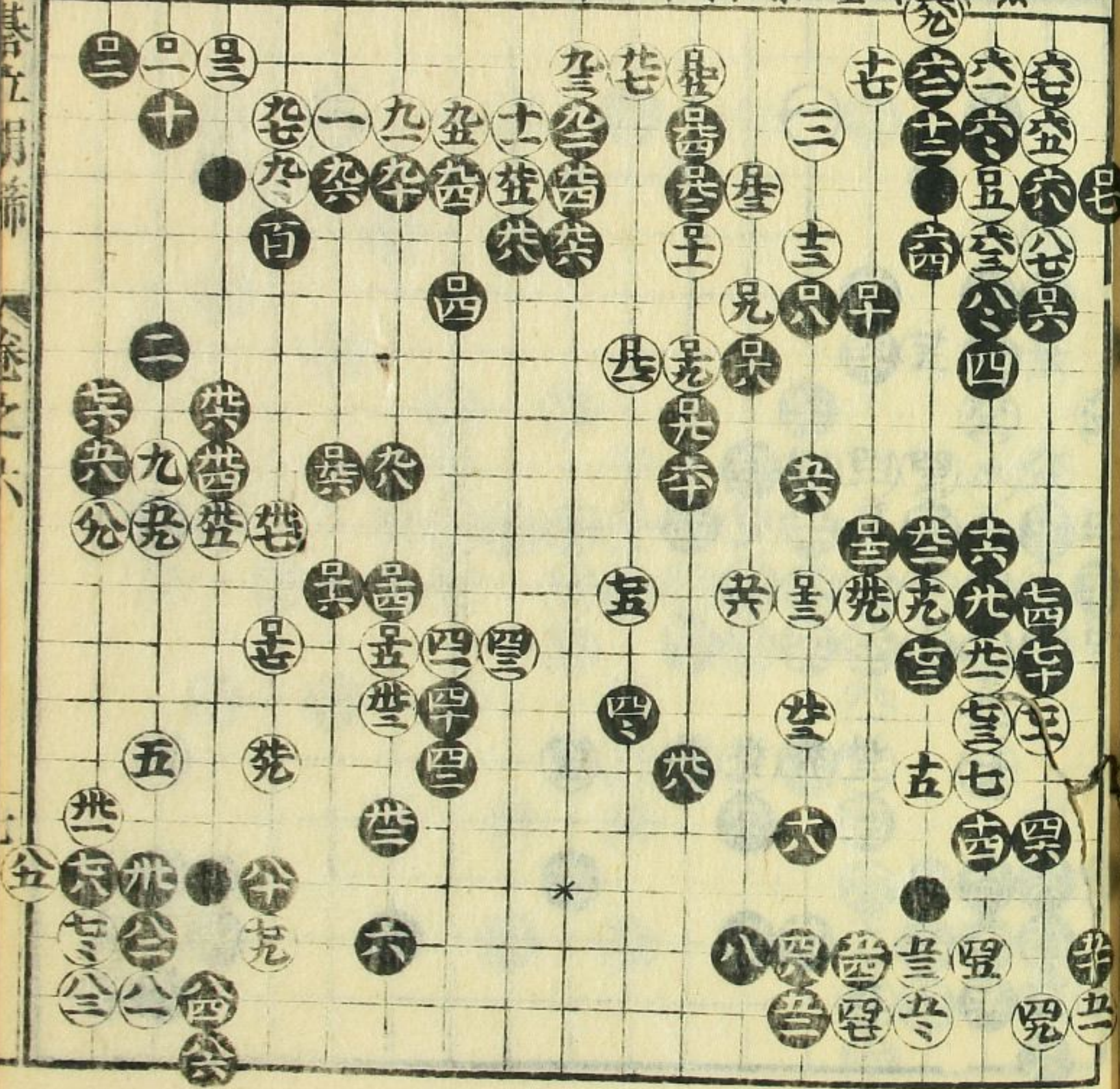
百廿五迄

世若五里の方入
つるふれく事の
大く打て白も
取付たはるま
裏小して是ま
くはと粘する
おちくたはる
のこく白打た
はくまら白す
まきん壁何と
すけくた右ん合
の運い何やも
はくまら白す
く打たはるま
すけくた右ん合
の運い何やも
はくまら白す
く打たはるま



百廿六迄

世若五里の方入
つるふれく事の
大く打て白も
取付たはるま
裏小して是ま
くはと粘する
おちくたはる
のこく白打た
はくまら白す
まきん壁何と
すけくた右ん合
の運い何やも
はくまら白す
く打たはるま
すけくた右ん合
の運い何やも
はくまら白す
く打たはるま



其五

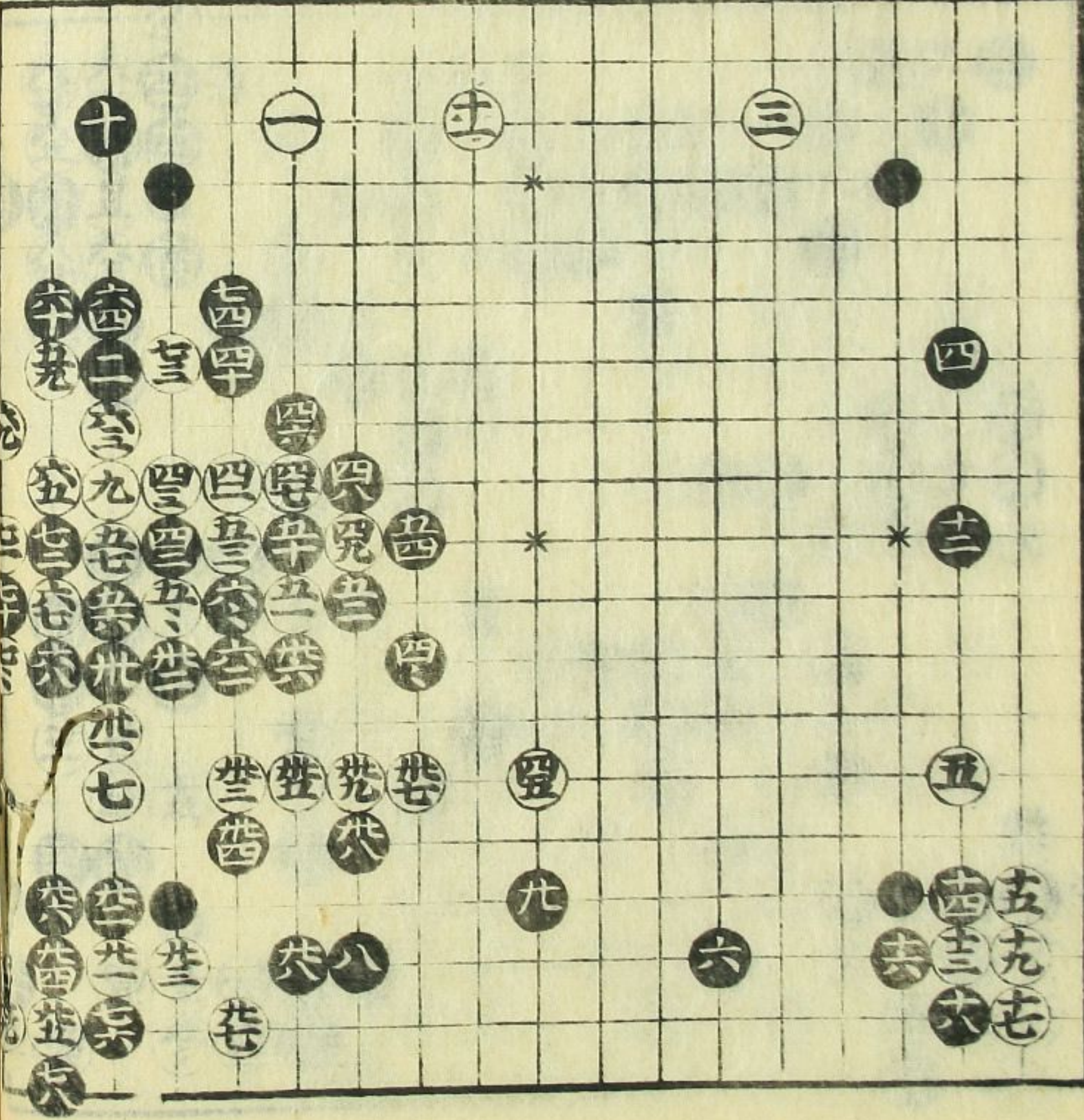
其六

其七

七十八の七

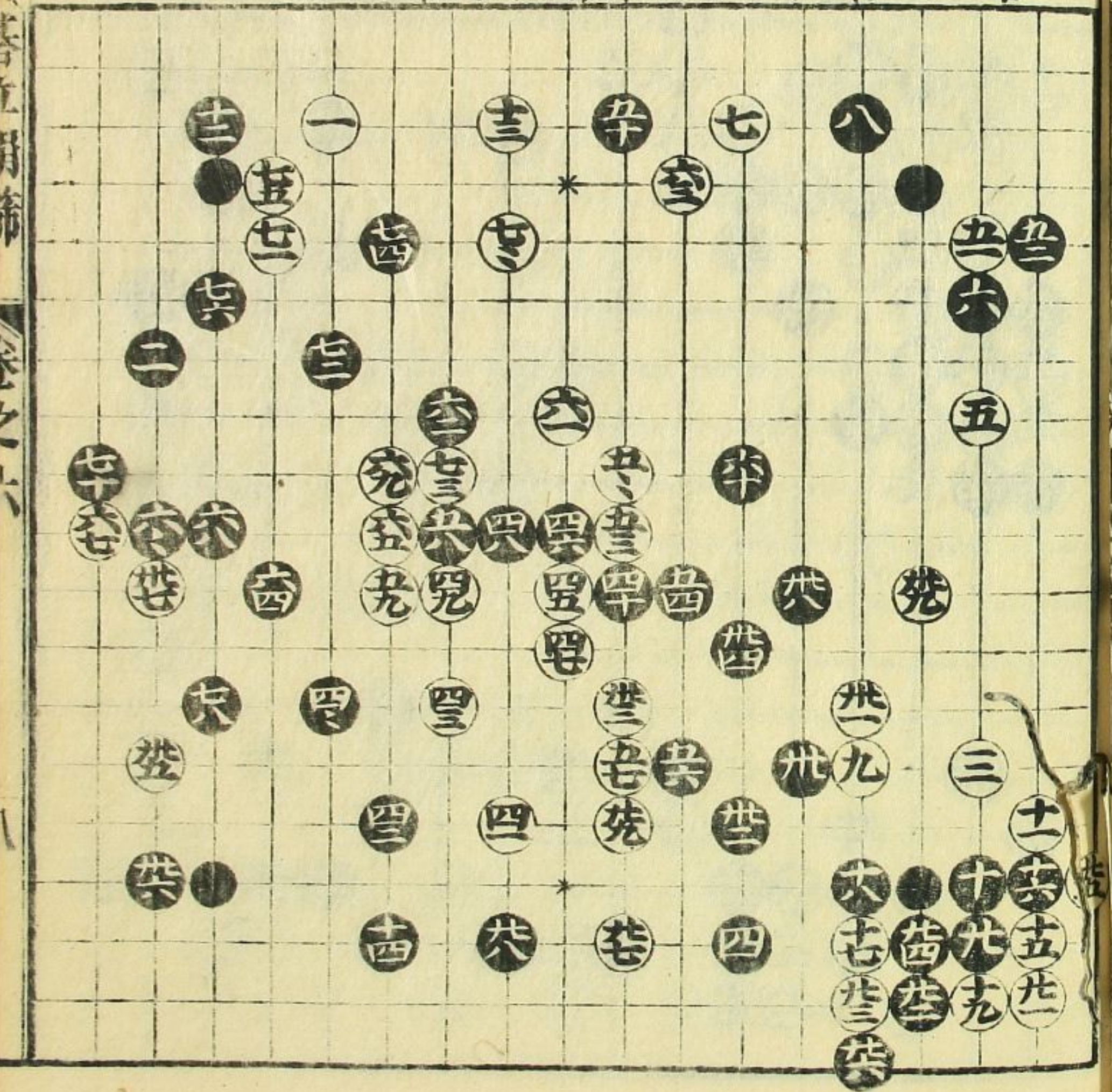
六甲乙丙丁
七五辛壬癸

此五中... 貴方... 内教... 附... 勢... 自... 爾...



七十八の七

此五中... 貴方... 内教... 附... 勢... 自... 爾...

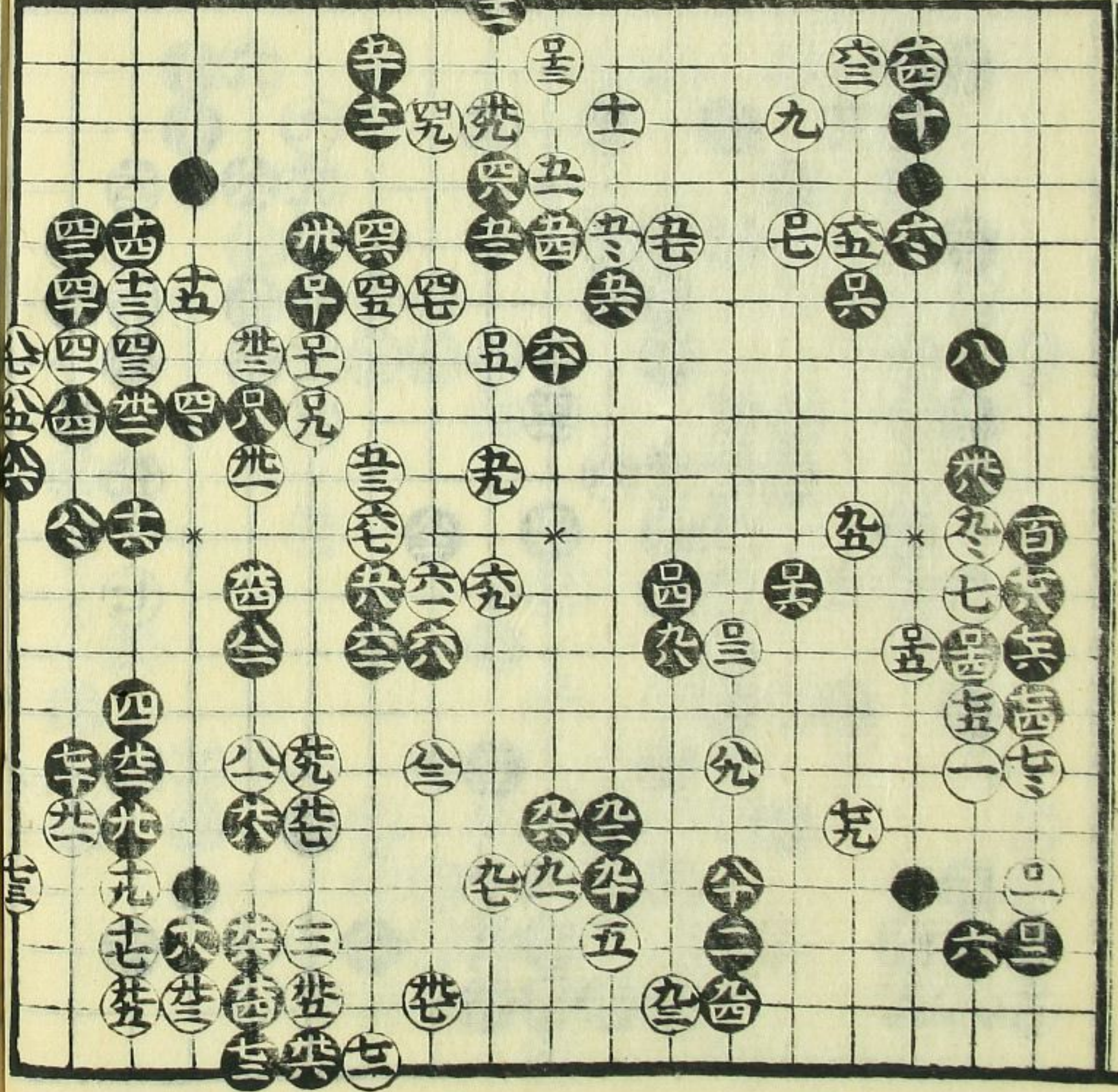


五五五五五

百十六の二

△下

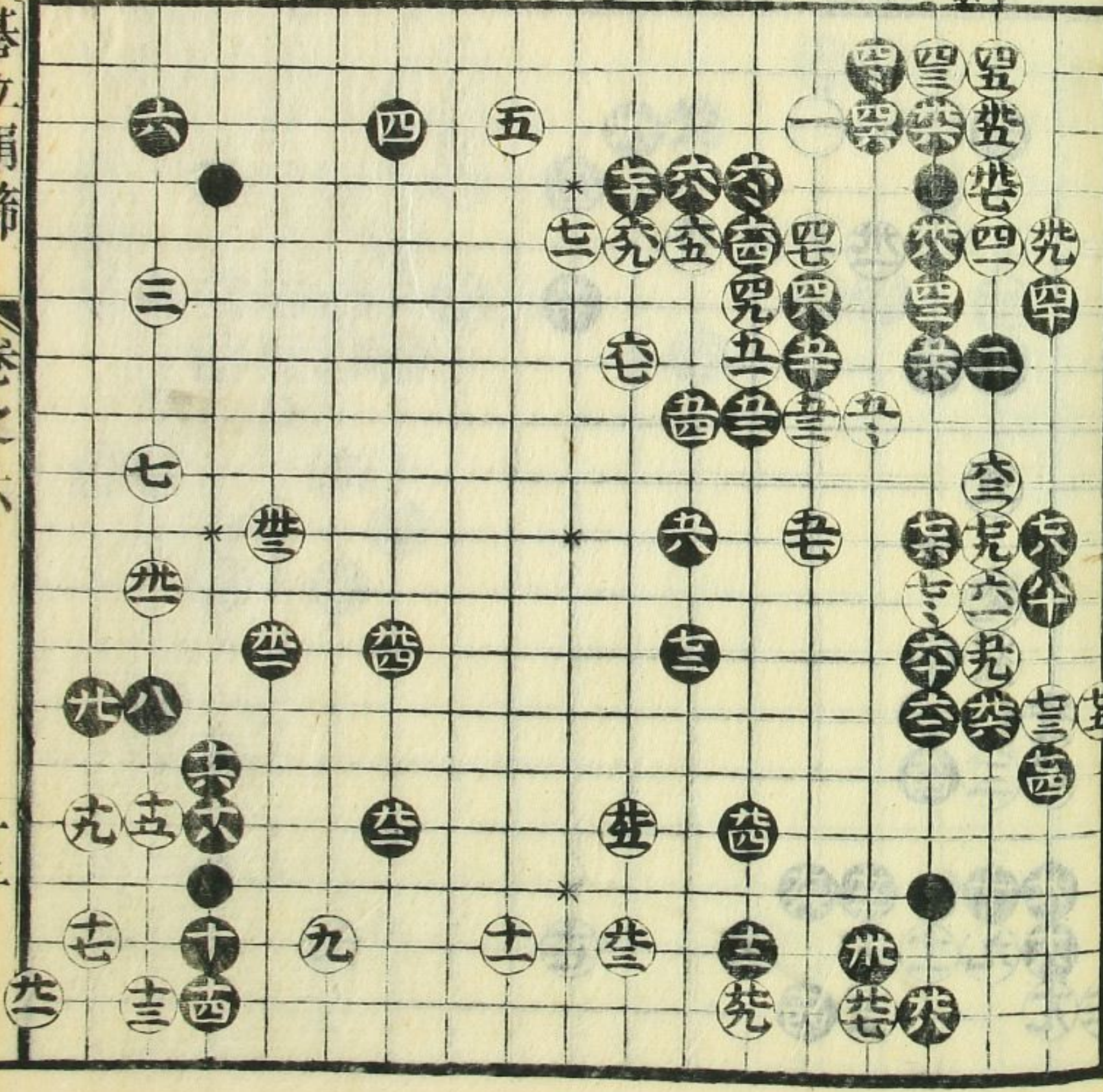
此五白の者... 中... 此五白の者... 中... 此五白の者... 中...



八十の道

△下

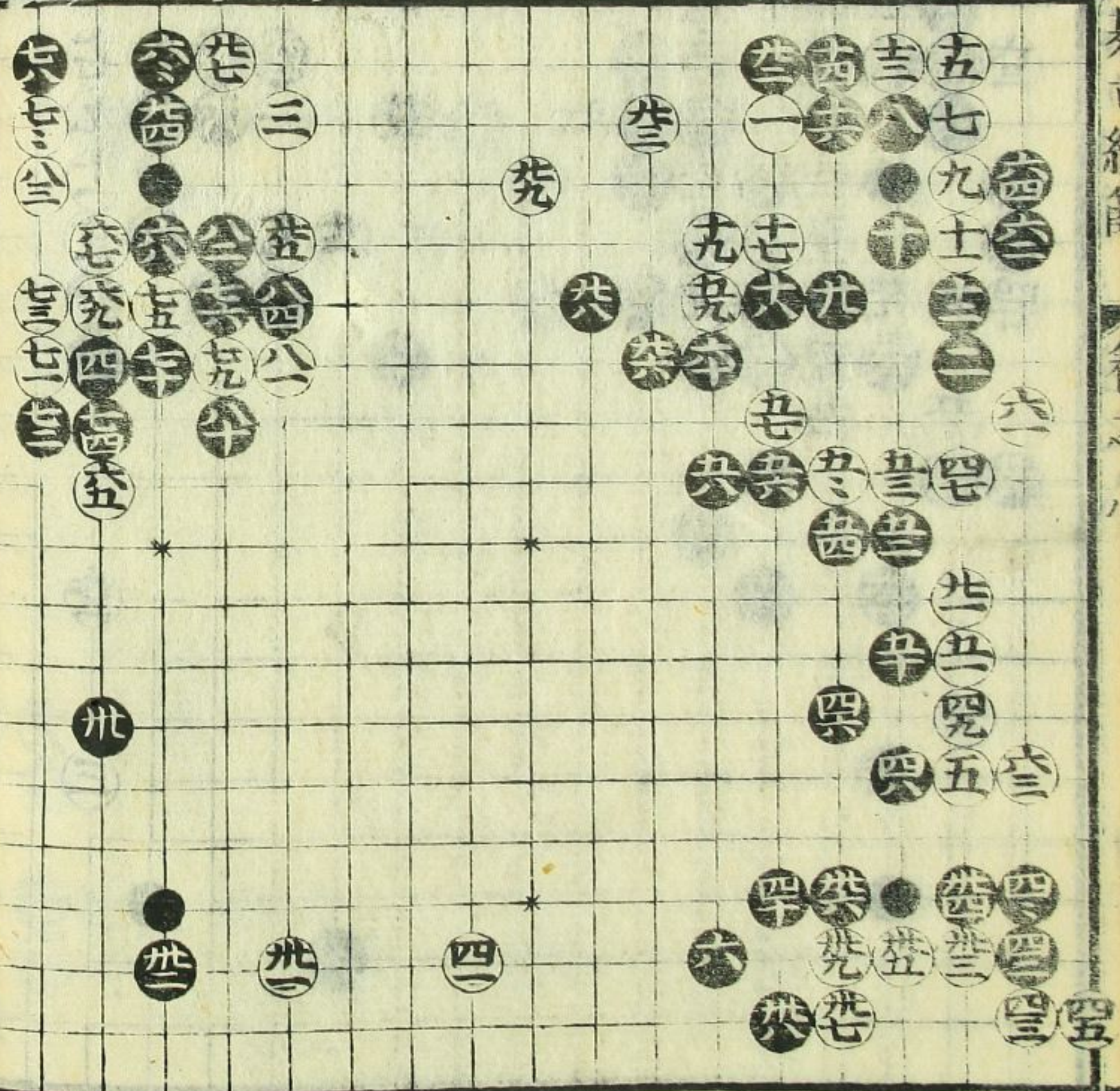
此五白の者... 中... 此五白の者... 中... 此五白の者... 中...



第九月命

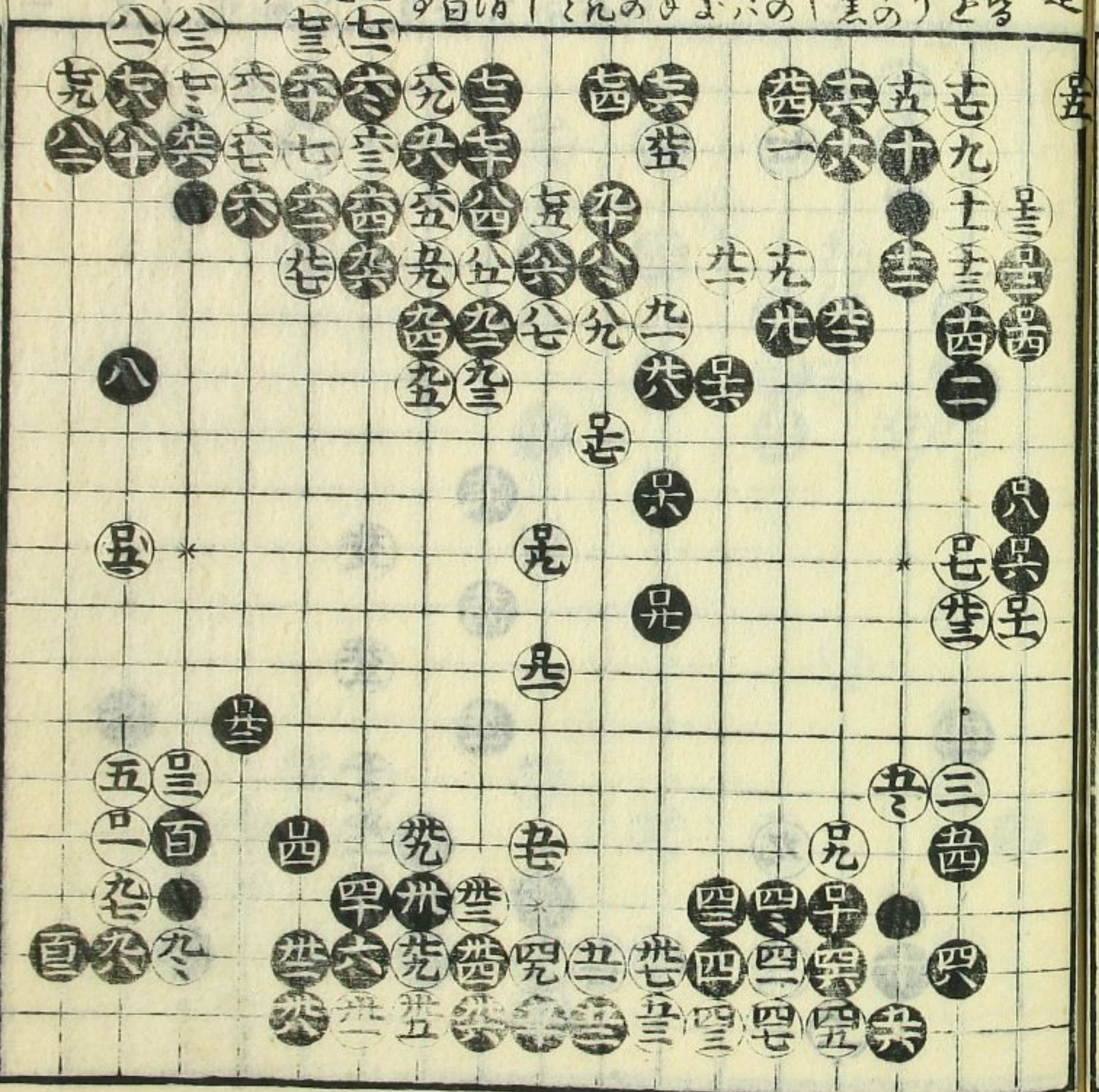
八十四の道

此石立茶二の〇字
是に同じく是なり
六五の附は板六の其の
黒打子者かしては
正打り多し其の
くさくさを知らず
を口信かり



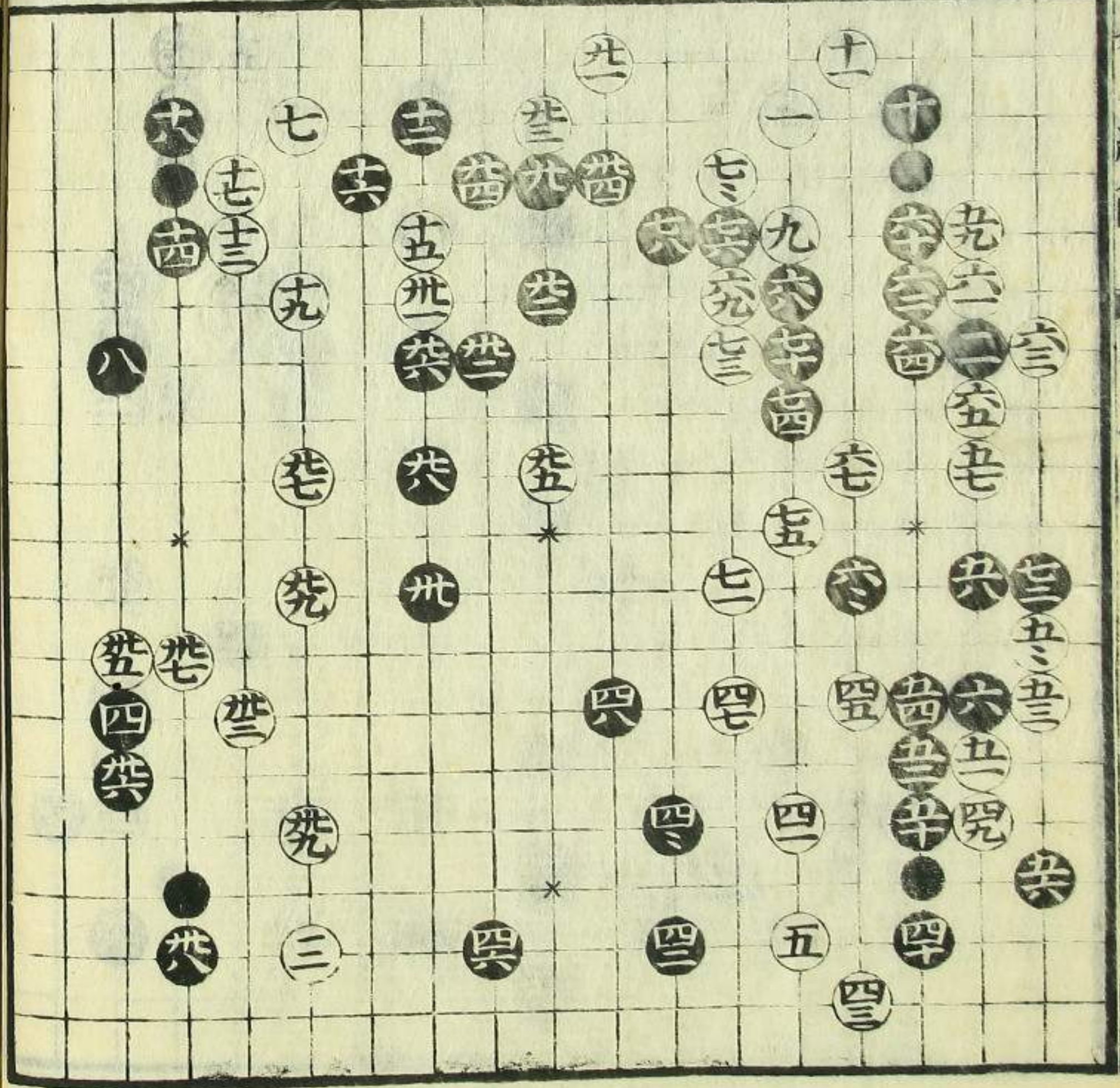
百二十二の道

此石立白のあたる時
早うに打たざるを
小基とせざるなり
すくなくその中の
勢ひを奪はざるを
多うとせざるなり
弱に依りて打つハ
白又打つは危し
なり上の時十六の
其此を打つは一切
打て打つは危し
ソは虚敵は危し
百十六の如く申すは
すくなくその中の
の勢ひを奪はざる
すくなくその中の
を打つは危し
めりて只位と
すくなくその中の
めりて只位と



七十八

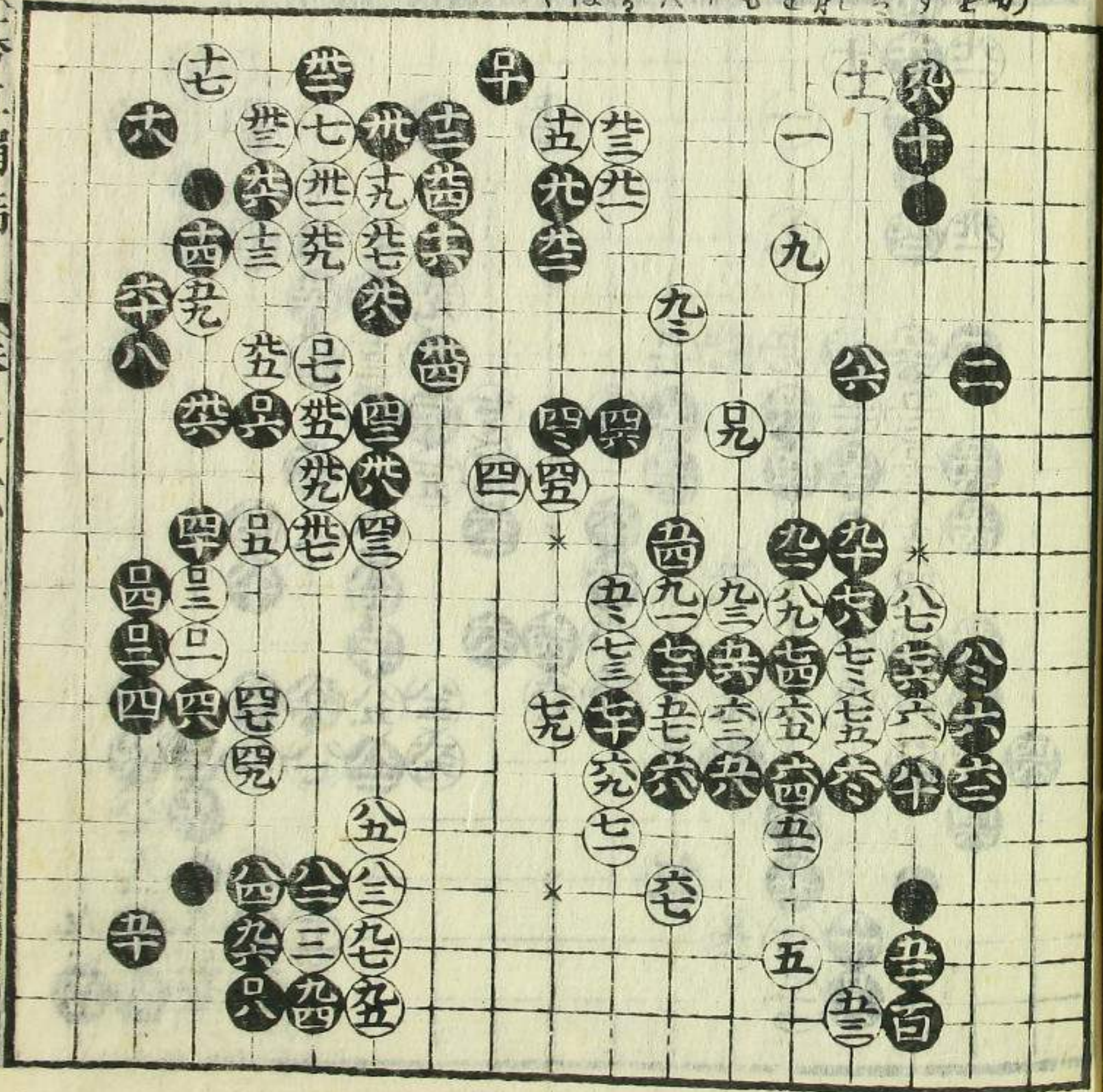
此名立地形を離れ... 此名立地形を離れ... 此名立地形を離れ...



百十

此名黒中勢有... 此名黒中勢有... 此名黒中勢有...

白八一



其立消諦

卷之六

棋譜

卷之六

白三 却上
 黒四 上
 白五 上
 黒六 上
 白七 上
 黒八 上
 白九 上
 黒十 上

此石立白大位小打
 と之其黒かしも動
 すりかちくこのやく
 らしむかにさく猪
 けくおれさうと
 ぶひおろく公者
 附公卒負にぬ

